



私のいちおし本

「古池に蛙は飛びこんだか」

長谷川 權 著



選者：内之浦中学校 校長 大山 裕章

古池や蛙^{とび}飛びこむ水のおと

おそらく世界で一番有名なこの俳句を知っている人の99%は、蛙が古池に飛び込んだと思っています。でも、それは間違いです。

筆者は、この句の真の意味や「切字（切れ）とは何か」を解説し、芭蕉の描こうとした現実の世界と心の世界の対立や「取り合わせ」「時間の逆転」「音の働き、音の不在」をもとに芭蕉自身が目指そうとしたことの全容を明確にしていきます。

標題にまつわる古池の句以外をどう読むかにも言及。俳句とは「詠むこと（創作）」と「読むこと（鑑賞）」の相関の上に成立する芸術なのだと改めて感じる事ができる、そんな一冊です。

今月の新刊

【銀河アリーナ図書室】

{一般}

平成くん、さようなら

古市 憲寿 著

平成を象徴する人物としてメディアに取り上げられ、現代的な生活を送る「平成くん」。

だが、平成の終わりと共に安楽死をしたいと恋人に告げ…。平成という時代と、いまを生きることの意味を問い直す。



{児童}

ゆき

はた こうしろう 絵

雪やこんこ、霰やこんこ。降っては降っては、ずんずん積る。山も野原も綿帽子かぶり、枯れ木残らず花が咲く。雪が降るとみんなが口ずさむ「ゆき」の歌の絵本。



その他の新刊

{一般} 昨日がなければ明日もない

宮部 みゆき 著

本と鍵の季節 米澤 穂信 著

{児童} おしりたんてい あやうしたんていじむしょ

トルロ 作・絵

ジャングルのサバイバル 4

洪在 徹文

【文化センター図書室】

{一般}

最後の読書

津野 海太郎 著

80代になると、本の読み方味わい方は深くなる。筋金入りの読書家が、老いてこそわかった読書の醍醐味を綴る。「蔵書との別れ」「いつしか傘寿の読書日記」など17編を収録。



{児童}

わるものパパのだいたいだーいファン

板橋 雅弘 作・サトウマサノリ 絵

パパの仕事は悪者プロレスラー。ある日、ぼくが公園にいくと、正義の味方のプロレスラー、ドラゴン・ジョージがいた。ジョージは、パパも昔は正義の味方として活躍していたと教えてくれて…。



その他の新刊

{一般} 金栗四三の生涯

昨日がなければ明日もない

宮部 みゆき 著

{児童} もしものときのサバイバル術

みけねちゃんにいうてみな

村上 しいこ 作・くまくら 珠美 絵